

■しまなみ海道（芸予諸島）



■ACCESS

◆車【しまなみ海道】

本州方面から 因島北IC下る 約1.7km 5分
四国方面から 因島南IC下る 約3.3km 10分

◆公共交通機関

バス停土生港から因の島バス因島大橋・久保田橋
行きで20分
水軍城入口下車徒歩10分

◆自転車（レンタサイクル）

土生港から約5.8km 40分

■INFOMATION

開館時間 午前9:30～午後5:00
※但し1月2日・3日は、10:00～15:00

休館日 毎週木曜日（祝日を除く）
12月29日～1月1日

観覧料 大人310円（団体30名以上210円）
小人150円（団体30名以上100円）
※小学生～中学生

駐車場 無料（50台）第1駐車場・第2駐車場

■お問合せ先

因島水軍城
〒722-2211 広島県尾道市因島中庄町 3228-2
TEL(0845) 24-0936

（一社）因島観光協会
〒722-2323 広島県尾道市因島土生町 1899-31
TEL(0845) 26-6111

『日本最大の海賊』の本拠地：芸予諸島
—よみがえる村上海賊
『Murakami KAIZOKU』の記憶—

因島村上海賊の日本遺産構成文化財



一、青木城跡

因島村上新蔵人吉充の居城跡。郭が5段重なり武者走りも残る。



二、白滝山
（五百羅漢像）

頂上には因島村上氏の当主村上吉充が建立したと伝えられる観音堂があり、参道には一体ずつ表情のことなる約700体の石仏が並ぶ。



四、因島村上氏一族の墓地

因島村上一族や家臣の墓とされる宝篋印塔や五輪塔が集積。



三、因島水軍城

「因島村上家伝来資料群」が構成文化財。

五、青陰城跡



海城ではなく戦国山城であり長崎・青木・余崎などの連絡場所であった。



六、棕浦の法楽おどり



村上海賊の出陣・帰陣の時に、勝利や安全を祝い戦没者の追悼の為の踊り。



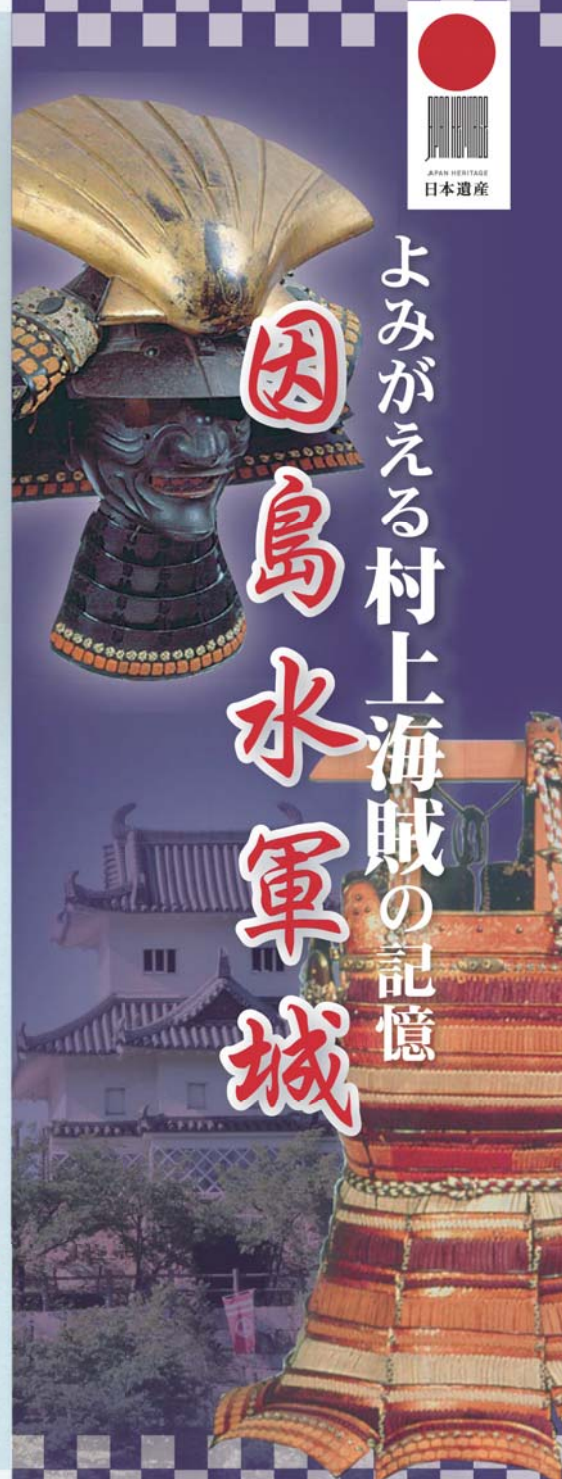
八、長崎城跡

因島村上氏初期の本拠地。海側には岩礁ピットも残る。航路を見張る重要な拠点。



七、地藏鼻（鼻の地藏）
美可崎城跡

海の関所として機能。郭跡や船隠しも残る悲しい伝説の石仏。



主な展示物一覧



ほたて貝兜 村上海賊の
大将の兜



水軍鎖かたびら
海戦時、船上や水中での活動
がしやすいよう工夫された
村上水軍の鎖かたびら

村上海賊の船



大阿武船1/12模型 (実寸20m)

※船の大きさは実寸の比率で
表しています。



関船 (実寸18m)



小早 (実寸11.10m)

村上海賊の武器



因島村上家太刀(銘 正信)
鎌倉時代 備後三原住正信作
刃長さ 71.2 cm

「第1次木津川口の戦い」で
織田信長軍を破った船団！



水軍戦法要領 水軍の戦法に関する要領が書かれている
海戦にのぞむ戦隊の隊形



尾道市有形文化財
しほみちやくしよくむらかみしんくろうどよしみつぞう
紙本著色村上新蔵人吉充像



広島県重要文化財
しほむらたきむらひいとだんあどしほらまき
白紫緋糸段緋腹巻
白紫緋糸段緋腹巻1領
室町時代末期の作
村上吉充が小早川隆景より拝領



かぶとまびきし
兜眉庇
白紫緋糸段緋腹巻の付属品
額につけるもの



やがらもがら
海戦時に使用した武器、敵を引っ掛
けて船から海中に引き落としたり、
海中から引き上げたりした。

主な展示資料

- 村上家古文書3巻(広島県重要文化財)
中世因島を中心に村上家に伝わる古文書で
荘園関係文書や宛行状・書簡状など51通
- 金蓮寺在銘瓦4枚(広島県重要文化財)
宝徳二年(1450)金蓮寺の御堂上ぶきのこと
を記した瓦 丸瓦1枚・かんぶ3枚
- 大塔宮令旨
六波羅府陥落の元弘三年(1333)に大塔宮
(護良親王)が村上家に宛てた令旨。
- その他
水軍船の模型・源平合戦屏風・村上新蔵人
吉充の肖像画・村上家相伝の太刀(2振)・
青木城主相伝短刀・具足・金屏風・絹本着
色涅槃像・因島村上水軍旗ほか



体験武者



武者姿で記念撮影
が出来ます。

村上海賊マップジオラマ



【日本最大の海賊】の本拠地：芸予諸島
一よみがえる村上海賊
【Murakami KAIZOKU】の記憶 —
認定ストーリー

戦国時代、宣教師ルイス・フロイス
をして「日本最大の海賊」と言わしめた
「村上海賊」Murakami KAIZOKU。理不尽に
船を襲い、金品を略奪する「海賊」(パイレーツ)
とは対照的に、村上海賊は掟に従って航海の安全
を保障し、瀬戸内海の交易・流通の秩序を支
える海上活動を生業とした。その本拠地「芸予
諸島」には、活動拠点として築いた「海城」群
など、海賊たちの記憶が色濃く残っている。尾
道・今治をつなぐ芸予諸島をゆけば、急流が渦
巻くこの地の利を活かし、中世の瀬戸内海航路
を支配した村上海賊の生きた姿を現代において
体験できる。(第2回日本遺産認定2016.4.25)

因島水軍城

因島水軍城は、因島村上氏が残した武具や遺
品・古文書など歴史資料を展示している資料館
です。
水軍のふるさと因島にふさわしいものごとを歴
史家奈良本辰也氏監修により昭和五十八年(1983)
に建設されました。
二の丸(66㎡)は展示室、隅櫓(124㎡)は
水軍資料館として一般に公開されています。
水軍城資料館には、因島村上氏6代当主村上
新蔵人吉充が明徳寺に寄進した釈迦の涅槃図や
小早川隆景より拝領された甲冑など水軍ゆかり
の品々が展示されています。

因島村上家

因島村上家は、中世瀬戸内海の中心にあって
11万4千5百石余を領有した海の大名であり
数百年にわたって瀬戸内海の制海を握り、幾多
の合戦に参加した他、遣明船の使節達の警護な
どを行っていました。
特に因島村上氏6代当主村上吉充は、
弘治元年(1555)、毛利氏と陶氏が戦った厳島
合戦で毛利氏に加勢し勝利をもたらしました。
また、天正四年(1576)7月の木津川口海戦
では、毛利警護船団の一翼を担い、織田信長率
いる織田水軍を壊滅させ、毛利氏の勝利に大き
く貢献しました。

村上海賊(因島・能島・来島)



因島村上氏 能島村上氏 来島村上氏